



防災訓練 (消火器による初期消火訓練)

## 高島公明会 災害から人の生命を守る防災対策の充実を図ること



小島洋祐 議員

**問** 災害から人の生命を守る防災対策の充実を図ること

市民が地震に対しての知識と関心を持ち、自分のことは自分で守る「自助」意識の高揚と、行政が地震に対してアピールしていくことが大事である。過日、自らが地震体験をすることが必要との思いから、京都市民防災センターで地震体験をしてきた。震度7の揺れの中でストーブの火を消し、ガスを止めてテーブルの下に身を伏せることはなかなか思うように行動できるものでなかった。実際に体験してこそ地震の恐ろしさも解り、部屋の家具の固定など自分の身

をどう守るかを真剣に考え、地震に対する知識を深めることよって減災できると思われる。防災対策の第一歩として、市民の地震体験の推進を強く要望するがどうか。

**答** 市長

「琵琶湖西岸断層帯」の地震発生予測や県の震度予測調査の結果が明らかになる中で、防災の備えは「自助」が第一義ですが、その取り組みも地域で助け合う「共助」へと広げる必要があります。市民の皆様にも防災知識を深めていただくため、17年度は、県消防学校所有の起震車を年間予約して、各種団体等の研修へ配車し、防災を

体験・体感していただく予定です。

**問** 地域文化、観光資源の活用で地域再生を

今求められている地域再生は、箱物中心や一律の開発方式による発展ではない。必要なのはあらゆる人に備わる多様性と創造性を活かした特色ある地域づくりであり、土地固有の実情を最もよく知っているその地域に住む人間の柔軟な知恵を活用した地域課題の克服が肝要である。昨年12月に完成した中江藤樹先生の映画は青少年の健全育成に資するとして「文部科学省選定」に選ばれている。現在の青少年犯罪が多発する中で、この映画の活用を図るべく販売の推進を要望するがどうか。

**答** 市長

高島市は豊かな自然環境と古くより発達した固

有の歴史文化や風土を有することから、地域資源を活かした多様な計画や観光施設の整備が進められてきましたが、地域経済への波及や生業を継続させる力には結びつきませんでした。こうしたことから、①「無い物ねだり」から足元にある素晴らしいものを見つめ直す活動②来訪者が高島市の良き理解者となるプログラムづくり③生業として経済的に継続、循環していく仕組みづくり④住んでいて良かった、住んでみたいと思えるような地域に育つことを目標に取り組むこととし、さらに、市内に点在する施設や各種イベントの総合的な見直し、役割分担を明確にするとともに、環境への負荷を最小限に止め、環境保全や保護に理解を深める自然・交流型の観光にも積極的に取り組まします。また、藤樹先生の教えに学ぶことやビデオの販売についても、鋭意努力する事を約束します。